

少女漫画

実施日：令和元年5月20日～24日 於：英国（ロンドン、リッジ）

■ 派遣専門家



萩尾 望都

漫画家 女子美術大学客員教授
女性漫画家の草分けであり、「花の24年組」と呼ばれる漫画家の中でも代表格と言われる。代表作に「ポーの一族」「トーマの心臓」「11人いる！」等。2012年に紫綬褒章受章、2019年に文化功労者に選出。



古川 麻子

小学館「月刊flowers」副編集長
多数の漫画作品の編集を手がけるとともに、読者向けイベントで作家のインタビュアーを務める等、編集者の経験を活かした活動も行っている。

■ 事業概要



ジャパン・ハウス ロンドンでの講演



大英博物館「マンガ展」での
オープニング式典



現地メディアによるインタビュー



在英日本大使館での
講演及びパネル・ディスカッション



セインズベリー日本藝術研究所での
ワークショップ



「柳の木」原稿

■ 実施結果

漫画家の萩尾氏と編集者の古川氏が、大英博物館のマンガ展の開幕に際し英国を訪問。同展オープニング式典に出席し、自らの作品が展示されている中で国内外のメディア取材に応じました。在英国日本国大使館及びジャパン・ハウス ロンドンでは、少女漫画が持つパワーや魅力をテーマにパネル・ディスカッションを行いました。リッジではセインズベリー日本藝術研究所の協力を得て、文学や表現に関心を持つ次世代層を対象としたワークショップを開催。萩尾氏の作品「柳の木」、「イグアナの娘」を題材に、漫画のストーリー展開の多様性や深みについて参加者との間で活発な意見が交わされました。国外最大規模の漫画展覧会となった大英博物館マンガ展との相乗効果もあり、漫画を通じて対日関心と親日感の醸成に資する事業となりました。